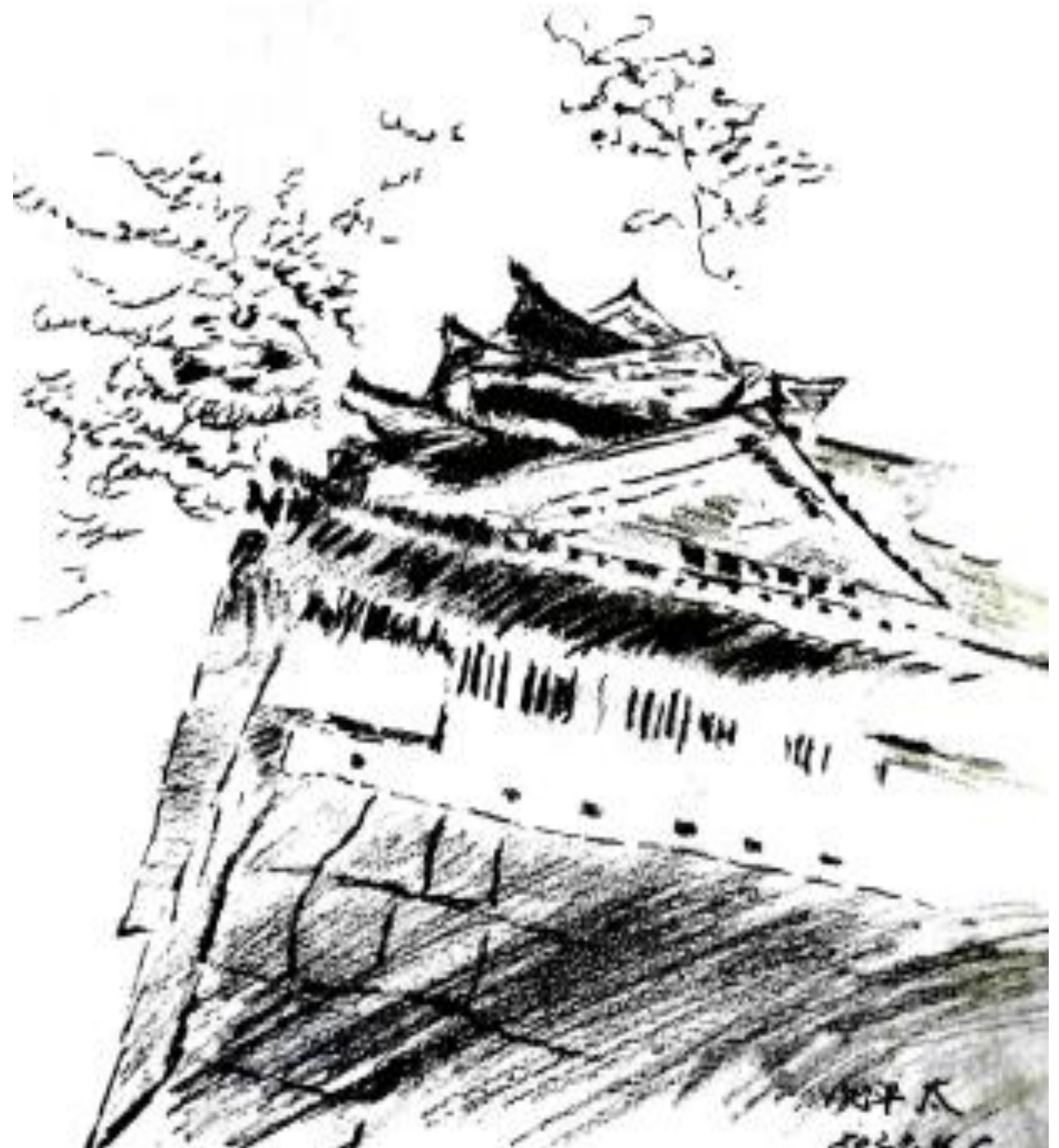


閣守天柳川

2024年3月号



第11回例会 2024年2月15日(木)

投句締切分

お題 「あちこち」

春田敏晴 選

(三才)

人 受験校あちこち受けて親瘦せる

勘兵衛

地 あちこちを探せど居ない青い鳥

加山勝久

天 寄る辺なく手垢の付いた広辞苑

小林満寿夫

軸 あちこちが昭和のままで心地よい

春田敏晴

しまい込みあちこち探すこれ老いか

佐野正邦

あつちに杖こつちに杖の老いの街

堀内きみ子

あちこちでツンデレしてるヤクザ猫

ルイ

あちこちの診察券を持つ愛猫

波部珀兎

障子貼りあちこち空いた指のあと

青鬼堂一宇

飢えが言わせたギブミーチョコレート

船木しげ子

田舎道路の臺やらたんぼほも

青空

あちこちで虎刈り悲し能登の路

由夏

少子化の話あちこちなる話題

久世高鷺

あちこちで増える「咳をしても一人」

真鍋心平太

あちこちで諭吉が踊る春四月

岡野とら丸

自由奔放に生きております乱れ髪

小林満寿夫

(五客)

佳5 太股に昨日は腰に今日は膝

下谷憲子

佳4 決めてなお目移りがする浮気癖

山野寿之

佳3 本命のチョコをばら撒く女神たち

平川柳

佳2 風になりあちこち跳んで膝に来た

佐野正邦

佳1 チャンネルを変える夜更けのラジオです

信子

(選評)

人の句

受験シーズンにふさわしい句です。

この頃は受験するだけでも費用は相当かかるようです。

志望校に受かり報われると良いですね。

地の句

青い鳥は必ずどこかにいると信じてみんな頑張っています。

大方の人は「水色の鳥」で我慢しているのではないのでしょうか。

「青い鳥」が見つかった人は幸せです。

天の句

上句の「寄る辺なく」に味わいがあります。

使込まれた広辞苑、手垢のついたあちこちの文字が

使っている人の人生を語っているようです。

お題 「光」

船木しげ子 選

双蝶が夫婦になつて光り合う

平川柳

ボランテア汗汗汗に差す後光

久世高鷲

陽光を浴びて輝く富士の嶺

井澤壽峰

光る能登みんな見ている国ちから

武智三成

もう誰も訪ねてこない月明かり

直子

宝石の値札にゼロがよく光る

岡野とら丸

リハビリの1歩1歩に光指す

堀内きみ子

翔平聡太光り輝く令和の雄

久世高鷲

キラキラとわたしの中にある決意

直子

後光かと思えば只の七光り

岡野とら丸

春分を過ぎた陽光肌を撫で

佐野正邦

(五客)

佳5 光射す当たり前だと思つてた

岩原一角

佳4 門掃きに水撒き京都に来る光

小林満寿夫

佳3 コトコトの母の黒豆黒光り

山野寿之

佳2 もやしっ子光があたるよう背伸び

由夏

佳1 にんげんを食べて生き抜くひかりごけ

平川柳

(三才)

人 騙されにいでと光り出すネオン

春田敏晴

地 十五歳君は逆光線だった

真鍋心平太

天 賓頭盧の御利益祈願撫で回し

青鬼堂一宇

軸 雑学の情熱光り夢繋ぐ

船木しげ子

選評)

人の句

これは大阪の北新地、東京なら銀座辺りのネオンで

「騙されに」というのが面白いと思いました。

同じネオンでも難波の灯は

もう少し庶民的なような気がします。

地の句

句のとおり中学生の時は

好きな人をまともに見ることは出来ませんでした。

まぶしそうな表情が懐かしいです。

天の句

賓頭盧(びんずる)は身代り仏で

直してほしいところを撫でて拜むと病が治ると言われています。

私は最近いろいろと病が出てきているので

身につまされてこの句に惹かれました。

お題 「雑詠」

真鍋心平太 選

眉月が寒中の空冴え渡る

△に戦争ほどくキーがある

ワイン飲み体揺れるは地震なり

ウォーリーを探せの囚人説があるなんて

都会でも道に迷って遭難し

ダイヤモンド富士その瞬間に打ち震え

年変わり早月変わり春が立つ

古い二人歩幅同じうして夫婦

そびえ立つ入道雲は父の貌

遠ざかる灯尾見つめている慕情

納豆に味噌汁添えるパンの朝

(五客)

佳5 巡礼が頭垂れてる白になる

佳4 二度までは許しましよと書き添える

佳3 元気の出るユーチューブとコーヒーと

佳2 雨はもう上がっているのよ相合傘

佳1 静寂な病窓の外救急車

佐野正邦

武智三成

勘兵衛

波部珀兔

浜脇蓬生

久世高鷲

佐野正邦

井澤壽峰

平川柳

平川柳

山野寿之

春田敏晴

下谷憲子

信子

小林満寿夫

堀内きみ子

(三才)

人 七彩の涙女の弾薬庫

地 掌で踊る亭主の処世術

天 実家に忘れ去られた若かりし自画像

軸 人というたつた二画の奥深さ

山野寿之

井澤壽峰

波部珀兔

真鍋心平太

(雑詠選評)

人の句

「弾薬庫」という語句がユニーク。

涙が女の「弾薬庫」でしかも七彩だと言うからたまらない。

男はなべて撃ち殺される。

地の句

亭主は奥さんの掌で踊らされているのが家庭円満の
コツである。掌で踊らされながらもそこにまた処世術が
あり楽しみもあるぞという男の自負(負け惜しみ?)が
感じられる句。男としてはやっぱりちよつと切ない。

天の句

自分には

「他人が思っている自分」「自分が思っている自分」

そして「本当の自分」の3つがある。

この句の「自画像」は「本当の自分」であるような

気がするのだがどうだろう。

お題 「セール」

互選

1点

ウォーキングスーパー巡るチラシ持ち店
店終い半額セール長い列
セールだが被災者救済いいかつこ
もう一度優勝セールタイガース
毎日毎日閉店セール3年目
平積みもベストセラーを呼び込めず
じゃこ天は伊予の逸品実は郷

2点

ライオンの鬣セールスマンの手に
これ以上無理ですフリーマーケット
CMの甘いセールに嵌まる罫
特売へバス代払い隣町
舌で溶けバレンタインの愛食べる

3点

買った次の日半額セールとはシヨック
セールより通販で買う時間です
儉約家セールの時期は買いまくる
セールばかりで何か空しい
またも並んだ肉屋のセール

4点

我先に取ったけれどもこれ要らん
セールにはセールの顔の並びけり
アマゾンが売っているのは「今」でしょう
初売りで切り売りにしたハートです
断捨離の箱はバーゲン品ばかり

5点

先着へ家族総出で並ぶ列
セール籠目玉を漁る顔馴染み
安売りのチラシ梯子は主婦の知恵

佐野正邦

山野寿之

岩原一角

堀内きみ子

波部珀兎

加山勝久

武智三成

小林満寿夫

小林満寿夫

堀内きみ子

岡野とら丸

平川柳

波部珀兎

船木しげ子

ルイ

春田敏晴

春田敏晴

青空

下谷憲子

真鍋心平太

直子

真鍋心平太

岡野とら丸

青鬼堂一宇

久世高鷲

6点 セールまで待つてはいられないピンク

如月は愛のセールで忙しい

閉店と開店セールで客を呼び

値引セールアドレナリンを引き寄せる

7点 老いたけどセールしてますいかがです

8点 献立はセールのチラシ次第です

9点 古書店でワゴンセールの文豪たち

特売という字女を燃えさせる

夕方の値下げセールを待つて主夫

安売りの棚に後悔並べてる

信子

平川柳

加山勝久

ルイ

佐野正邦

青空

浜脇蓬生

由夏

由夏

直子

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

今月の投句者（24名 敬称略）

井澤壽峰

加山勝久

久世高鷲

勘兵衛

山野寿之

岩原一角

信子

春田敏晴

武智三成

平川柳

ルイ

波部珀兎

小林満寿夫

真鍋心平太

舟木しげ子

青空

青鬼堂一宇

浜脇蓬生

直子

由夏

岡野とら丸

堀内きみ子

下谷憲子

佐野正邦

太字の方は初参加です。

今月投句者は24名、初めて20名を越えました。
皆様ご参加、ご協力ありがとうございます。

お題 「空白」短句

互選

1点

空白は浮く満つゲンゲ摘み 青鬼堂一宇
透明な時駆け抜ける蝶 平川柳
空白む頃時計を止めて 青鬼堂一宇
トルの空白埋める円安 春田敏晴
少女のいのちマニキュアの色 平川柳
空白は公開できない支出先 加山勝久
空白の行ばかり自分史 由夏
超AIがほごく戦争 武智三成

2点

天命下す征爾の魔界 小林満寿夫
クロスワードは空白だらけ 浜脇蓬生
さつき見た夢思ひ出せない ルイ
推理ドラマは空白に鍵 波部珀兎
息継ぎほどの隙間埋まらぬ 下谷憲子
理不尽ばかり増える空白 直子
全身麻酔空白の体 堀内きみ子
とにかく埋める空白の欄 岡野とら丸
サイフ忘れて頭真っ白 浜脇蓬生
死んだら終わり思わないけど ルイ
純粹の白光の代理 船木しげ子
記憶に無いと敢えて空白 波部珀兎
退職するとすぐに空白 信子

3点

4点

白い時間を野良猫が食べ 船木しげ子
過去の空白未だ埋まらぬ 久世高鷲
空白の白灰色の罪 井澤壽峰
誰も戻らぬ拉致の海岸 真鍋心平太
逃げて空白最後実名 堀内きみ子
滾りたつ胸日記空白 山野寿之
老いの目覚まし伊勢物語 武智三成

5点

千鳥足には空白がある 岡野とら丸
告知の前に尖る空白 春田敏晴
拉致家族との続くブランク 久世高鷲
空白の文追伸を待つ 井澤壽峰
訛りが埋める空白の時 由夏
空白が今年も目立つ日記帳 加山勝久
春一番が空白を斬る 山野寿之
転んでからの空白5分 信子
空白満たす春の足音 直子

7点

12点

「昭和100年」

真鍋心平太

来年は2025年昭和100年である。

私は来年喜寿を迎えるのであるが振り返ってみると昭和を41年、平成を30年、令和を6年生きたことになる。平成の最後の年に腎臓を悪くしてからはおまけの人生である。

おまけの人生の中では、それまでの人生を思う時間が多くなつた。本を読んでも、川柳を作っても、絵を描いても、未来よりは過去を振り返ることが多い。若いころに人間は死ぬ瞬間に走馬灯のように一生を振り返ると聞いたが、そうではなく老いてからゆつくりと日々噛みしめるように思い出すものだというのが今の実感である。

たのしいこともかなしいことも思い出すことはさまざまだが昭和、平成、令和を生きてきたのだなあと思うと、大半を生きた昭和が身に沁みる。

もう会えない人に会いたいと思うとき、過ぎ去つた日々を思うとき、日本のさびしさの歌を思い出す。日本のさびしさを歌つた歌が身に染みる。

教科書で見た歌

瀬をはやみ岩にせかるる滝川の割れても末に逢はむとぞ思ふ

名にしおわばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人（は）ありやなしやと

ラジオの旺文社大学受験講座で先生が朗読された詩

からまつ的林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き
からまつはさびしかりけり
たびゆくはさびしかりけり

今般の能登の災害を見ては北国金沢の詩人室生犀星の若い
日の抒情詩を思い出す。

一日もの言わず
野にいでて歩めば
菜種のはなは
遠きかなたに波をつくりて
いまははや
しんにさびしいぞ

百万遍テレビで嘆くよりこれらの一節をつぶやくほうがは
るかに心に寄り添える気がする。

今月の巻末の絵は、昭和、平成、令和といろいろなもの
が走り抜けていった中でずっと私の側を走っていた京阪電
車である。ここ大津では路面の上を走っている。シンボル
カラーのグリーンは子供の頃から変わっていない。

川柳天守閣 連載 評論「現代川柳の詩学」を考える ②

『誹風 柳多留』編者・呉稜軒可有の「一章に問答」とは十八世川柳宗家 閑成庵川柳 平 川柳 東京川柳会主宰)

川柳という文芸が独立した短詩文芸となるのは一七六五(明和二)年五月、編者・呉稜軒可有が『誹風 柳多留』と題して柄井川柳選句集を刊行してからである。前句を切り離して「一句にて句意」を分かり易くするため、に呉稜軒可有は川柳という一行詩形に「問い」と「答え」の対立的な二元構造が必要と考え、それを「一章に問答」という言葉で表現しました。具体的に『誹風 柳多留』(初篇)から例を挙げておきましょう。

子が出来て川の字なりに寝る夫婦

この川柳の前句は「ほなれこそすれ、はなれこそすれ」です。この前句をとってわかりやすくするために呉稜軒可有はまず上五の「子が出来て」を「問い」と考えます。その「問い」から中七・下五の「川の字なりに寝る夫婦」という「答え」を引き出します。

呉稜軒可有は柄井川柳の選句した「付句」の中からこのような「一章に問答」の構造のある付句を収録しまし

た。こうして前句を切り離して「一句にて句意」が分かり易くなり、川柳という文芸は独立した短詩文芸になったのです。

この「古川柳」の「一章に問答」の構造は、次のような現代の川柳にも認められます。

国境を知らぬ草の実こぼれ合い 井上 信子

人間を掴めば風が手に残り 田中 五呂八

ぬぎすててうちが一番よいという 岸本 水府

寝ころべば畳一枚ふさぐのみ 麻生 路郎

恋人の膝は檸檬のまるさかな 橘高 薫風

夫婦とは海を鳴き交う鳥に似る 柴田 午朗

にんげんの言葉で折れている芒 定金 冬二

かくれんぼ 誰も探しに来てくれぬ 墨 作二郎

妻を殺してゆらりゆらりと訪ね来よ 時実 新子

子を産まぬ約束で逢う雪しきり 森中恵美子

雪に死ぬとき乳房に似たる山ありき 岸本 吟一

今回は『誹風 柳多留』に収録されている「古川柳」を

取り上げ、川柳の「内在律」が、どのようなものかを具体的に論じていきたいと思います。(続く)

第12回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「野暮」 島根 写太 選
「伝える」 波部 珀兎 選
「動く」 互 選
「雑詠」 真鍋心平太 選
「卒業」(短句) 互 選
(投句 各 2 句)

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は
下記 URL から可能です。

http://excellan.kir.jp/ten_reikai/web_siyu_menu.php

投句、互選投票は会員登録が必要です。

会員登録は下記 URL より

http://excellan.kir.jp/ten_reikai/id_make.php

投句開始 2024年3月9日(土) から
投句締切 2024年3月15日(金) まで
互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。
3月16日(土) ~ 3月19日(火)
披講発表 3月20日(水)から随時閲覧可能になります。

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



パステル画 心平太

(クリックすると大きくなります。)

二〇二四年二月二十五日発行

ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

Tel・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446